

(別紙参考様式1)

抗 HIV 薬予防内服同意書

(抗 HIV 薬整備医療機関)

病院長 殿

私は以下に記載されている HIV 感染血液等の曝露事象による感染の危険性と、抗 HIV 薬の予防内服における感染予防の利益、抗 HIV 薬による副作用の発生リスクについて説明を十分理解した上で、自らの意思により予防内服を希望します。

令和 年 月 日

本人署名

1. 感染のリスクについて

- 針刺し事故で HIV 感染血液に曝露した場合の感染リスクは約 0.3%、粘膜の曝露においては約 0.1%です。
- その感染力は極めて弱く、B 型及び C 型肝炎と比較して、B 型肝炎の 1/100、C 型肝炎の 1/10 程度です。

2. 予防内服の効果について

- 感染直後に AZT(抗 HIV 薬)を内服することで、感染リスクを約 80%低下させることが示されています。
- 推奨された抗 HIV 薬を予防内服すると曝露後の予防効果はさらに高まると考えられています。

3. 予防内服開始までの時間的猶予について

- 感染を予防する利益と副作用による不利益を考え合わせた上で、予防内服が必要と判断された場合には、少しでも早く内服を開始すること(できれば 2 時間以内が望ましい)をお勧めします。なお、2 時間を超えた場合でもできるだけ速やかに内服することが推奨されています。
- どうしてもいかわからない場合は、ひとまず 1 回目の内服をすることが推奨されています。その後、次の内服まで 12 時間の時間的余裕ができますので、エイズ治療拠点病院の HIV 専門医と最善の方法を相談することをお勧めします。

4. 予防内服について

- 内服薬は、アイセントレス錠 400 mg と デシコビ配合錠 HT(もしくは ツルバダ配合錠)の 2 種類です。
※抗 HIV 薬整備医療機関や妊娠の有無等によって内服薬が異なる場合があります。
- 内服薬の詳細については、裏面の「薬剤の内服方法と副作用」を参照ください。
- 予防内服期間は、通常 4 週間の継続内服が推奨されています。

(裏面あり)

〈〈 薬剤の内服方法と副作用 〉〉

- アイセントレス錠 400 mg<RAL>〔1回1錠1日2回内服〕食事の有無にかかわらず内服可能
〈主な副作用〉頭痛、嘔気、腹痛など
※従来の抗 HIV 薬と比較しても副作用や薬物相互作用が少ない。

- デシコビ配合錠 HT<TAF/FTC>〔1回1錠1日1回内服〕食事の有無にかかわらず内服可能
〈主な副作用〉腹部膨満感、腎障害など
※腎機能が著しく低下している場合は、注意が必要。
※B 型肝炎患者が内服した場合、内服中止後、時に肝炎が悪化することがある。
※妊娠 14 週以降の妊婦における安全性が確立している。

[デシコビ HT の代替薬剤]

- ツルバダ<TDF/FTC>〔1回1錠1日1回内服〕食事の有無にかかわらず内服可能
〈主な副作用〉腹部膨満感、嘔気、下痢など
※B 型肝炎患者が内服した場合、内服中止後、時に肝炎が悪化することがある。

5. その他

- 妊婦に曝露後抗 HIV 薬を投与した場合の胎児への安全性の懸念は残るものの、上記処方は、HIV 感染妊婦の母子感染予防の抗 HIV 薬として推奨されています¹⁾。妊娠している場合は、エイズ治療拠点病院の HIV 専門医に相談してください。
- 抗 HIV 薬は、B 型肝炎の治療薬として使われているものがあります。B 型肝炎の既往がある場合は専門医に相談してください。

1)抗 HIV 治療ガイドライン(2023 年 3 月 R4 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業)
HIV 感染症および血友病におけるチーム医療の構築と医療水準の向上を目指した研究班
(参考)The European Guidelines for Treatment of HIV Infected Adults in Europe
(European AIDS Society, Version 11.1, October 2022)